地域特性を活かしたパンジーの鉢物栽培技術の開発

【研究概要】

都産花壇苗の1/3を占める重要な品目であるパンジー・ビオラについて、江東地域の冬季温暖な気候と市場・消費地に隣接する立地条件を活かして、鉢物で高収益なオリジナル商品を開発することを目的に試験を実施した。

（１）当年産落ち葉を用いた踏み込み温床ユニット（ハウス内に0.36m^3、表面積3.24m^2で設置）では、約１ヵ月月間で灯油量換算22Ｌ相当の約17万kcal/kgの発熱が得られた。前年度産の落ち葉では発熱量が低く、米ぬかを追加施用しても昇温効果は短期的であった。

（２）３月出荷ビオラ栽培への温床ユニット使用は加温装置として有望だが、効果持続性には問題があった。

（３）温床に利用した落ち葉を５ヵ月たい肥化したところ、マリーゴールドのポット栽培においては30%を下回る量を、行灯アサガオ鉢栽培には20%以下を標準用土に混合利用可能であった。